



『沖縄と海兵隊：駐留の歴史的展開』（旬報社）

沖縄に駐留する米軍の中で海兵隊の存在は圧倒的である。基地面積では75%、兵力で60%を占める。にもかかわらず海兵隊の運用や任務実態は日本でほとんど知られていない。なぜなら沖縄への米軍駐留は日米安保体制の中で「所与」のものとされてきたからだ。

本書はその「所与」を深掘りした初の著書である。海兵隊は朝鮮戦争後、岐阜県、山梨県、静岡県に分散配置され、朝鮮半島情勢を警戒するはずだった。しかし突然沖縄移転が決まった。いまは中国を警戒しているはずだが、米軍再編でグアムやオーストラリアへ主力兵力が転出する。この動きを追うと、軍事的な理由で配置先が決まるのではないことが分かる。日米安保体制(システム)を維持しつつも情勢によって軍事態勢(ポスター)は変化する。この定義を再認識した上で沖縄基地を見直すと、問題の本質が浮かび上がる。(屋良朝博)

本の紹介：屋良朝博（フリージャーナリスト・元沖縄タイムス記者）

報告：川名晋史（平和・安全保障研究所）

齊藤孝祐（横浜国立大学）

山本章子（沖縄国際大学）

司会：岩下明裕（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）

*沖縄と海兵隊の問題を歴史的かつ実証的に研究した『沖縄と海兵隊：駐留の歴史的展開』（旬報社）の執筆者全員が一同に会したセミナーです。

2016
9/21 WED. 16:30-18:00

参加無料・事前登録不要

沖縄と海兵隊

ボーダースタディーズから読む日米関係

アクセスマップ



※駐車場はありません。公共交通機関でお越し下さい。

会場 **SRC** 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
4階 大会議室 (403)

アクセス

- A** 人文・社会科学 総合教育研究棟 (W棟) から W棟の正面玄関に入って右へ進み 法学部棟を経由します。
- B** 附属図書館 (札幌駅・北大正門方面) から 附属図書館の正面玄関に入って直進し 渡り廊下を通り法学部棟に接続します。
※附属図書館閉館時は **C** へ

- ・法学部棟より2階上がります。
- ・法学部棟 **2階** に、当センターへの連絡通路がございます。(他からは接続できません)
- ・当センター2階「事務室」奥の階段、またはエレベーターで **4階** へ上がってください。
- ※各所の頭上に案内板がございます。あわせてご確認ください。

お問合せ 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 境界研究ユニット (UBRJ)
〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目
電話 | 011-706-2388 ※土日祝日を除く FAX | 011-706-4952
E-MAIL | ubrj@slav.hokudai.ac.jp URL | http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/ubrj/

